

令和 5 年度 県立取手松陽高等学校自己評価表

目指す学校像	学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 心身ともに自立し、主体的に学び実践する生徒の育成 ○ 広い視野をもち、多様性を重んじ、社会に貢献できる生徒の育成 ○ 芸術やスポーツを通し、感性を磨き、心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○ 課題の解決を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現する探究活動の実施 ○ 芸術や文化、地球市民教育、ボランティア活動を通じて社会的視野を広げ、協働できる資質を身に付ける活動の実施 ○ 部活動や学校行事、地域と連携した芸術活動をはじめとする、特色ある活動の実施	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○ 基本的生活習慣の身についた学習や活動に意欲的に取り組むことができる生徒 ○ 自らのキャリアを主体的に探究し、自己実現のために継続的に努力できる生徒 ○ 芸術や文化に関心を持ち、社会に貢献する意欲のある人間性豊かな生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【 成 果 】 ○ 基本的生活習慣の確立や服装容儀を整える生徒指導、課外授業の充実といった進学指導等を通して、国公立大学への進学や公務員試験合格者も増加した。 ○ 脱コロナを実践するべく、各学校行事、部活動、生徒会活動、国際交流活動等を、リモートでの取り組みを挟みながら組織的に運営するなど工夫を凝らすことで、多くを実施することができた。 ○ 交通事故や特別指導の件数が少なく、全体的には落ち着いた雰囲気である。 ○ 保健・安全教育の充実を目指した指導を行っている。 【 課 題 】 ○ 礼法や基本的生活習慣のより一層の定着と教職員一人一人が全体的な視野で取り組み、国際理解教育や道德教育の充実、外部指導者を活用した部活動の推進、生徒個々の進路実	基本的生活習慣（コロナ感染症対策の対応を含む）と学習習慣の定着	1 After コロナの状況下で、生徒・保護者並びに家族・職員の安心安全を確保しつつ「学びをコロナ以前の状態に戻しつつ、コロナで培った新たな取り組みを取り入れる等」の方策を積極的に進める。 2 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。 3 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。	B
	ICT の活用を含めた学習による学力向上と主体的な学びの育成	4 授業改善プロジェクトのメンバーを核として授業研究や職員研修を充実させることにより、ICT を活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、生徒の学力向上を図る。 5 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。 6 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。	A
	国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対	7 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ 5 ～10 人以上、私立大学合格者数延べ 130 人以上を目標とする。	

別紙様式 2 (高)

現を目指す。 ○ ICT 機器を活用した授業の充実を目指し、研修会への参加や公開授業を積極的に実施するなど、全教職員で授業改善に取り組む。 ○職場環境や勤務時間の改善。(令和5年3月の平均超過勤務時間は8時間34分。ちなみに、令和4年3月調査時間が7時間58分で36分増) 定時退勤日の遵守。		策の確立	8 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。 9 土曜開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成する。 10 三年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。なお、学校評価に係る生徒による授業評価の結果を授業改善に反映する。		B	
		特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実	11 充実した学校生活に資するため部活動加入を働きかけるとともに、外部指導者の積極的な活用を図り、加入率70%以上を目標とする。 12 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。また、学校HP、学校通信等を用いて情報発信を充実させる。 13 ホームルーム活動や学校行事及びボランティア活動等を充実させることで、自らを振り返り、将来を考え、自分の成長を認識できるようキャリアパスポートを活用する。		A	
		働き方改革の推進	14 ICT の利活用による業務の効率化、資料等のペーパーレス化を推進することにより、教職員の業務改善を促す。 15 部活動の全体活動の効率化を図ることで活動時間を短縮し、生徒・職員の負担を軽減する。		A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
教務	ICT を積極的に活用しながら、学校全体で授業の質を向上させ、より魅力的な授業展開を進める。	・授業改善を意識するよう校外での授業参観や研修会への参加を積極的に促す。		A	B	引き続き、個々の授業の魅力を高める方策を模索していきたい。
		・研究授業・公開授業(相互参観等)を推進し、全教職員で授業改善に取り組む。		B		
		・ICT を活用した教育活動を促進し効果的に授業等に活用し授業の質の向上を図る。		B		
		・授業開始・終了時刻の厳守、出張・年休等における授業時間確保に努める。		B		
	特色ある学校づくりと学校全体の活性化を図る。	・3学科それぞれの特色を生かして連携を図り、学校全体の活性化を推進する。		A		特に、普通科の特色をより確立していきたい。
		・地球市民教育を支援し、国際理解教育の充実を図る。		B		
広報、外部への情報発信を活発に行うことで、本校の魅力を広め、認知度を高める。	・学校説明会、体験入学、公開授業等によって本校の教育活動を地域に開かれたものとし、本校の特色や魅力を積極的にPRする。		B	B	本校の特色や魅力をさらに広めるための方策を探っていきたい。	
	・情報部と連携し、学校HPの内容をより一層充実させ、「松陽通信」等により中学生や地域に向けての広報活動を活発に行う。		B			

別紙様式 2 (高)

生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	・身だしなみを整えて生活をさせるために、登下校時の指導・授業時の指導（段階的指導）を徹底する。	B	B	共通理解を図る。
		・挨拶を励行し、教員側からも積極的に挨拶をしていく。	B		継続できるようにする。
	事故等の未然防止に努める。	・遅刻を減少させるために、昇降口での登校指導の充実、本人との面談、家庭との連絡を徹底する。また遅刻指導を実施する。	B		継続できるようにする。
		・事故等（交通、生徒指導、校内における諸問題）の未然防止に努めるため、各関係機関との連携、必要に応じて生徒面談、保護者面談を行う。	B		定期的に注意喚起をする。
特別活動	学校行事を通して、所属する集団への帰属意識を高めるとともに、協調性や責任感を養う。	・文化祭やクラスマッチ、野球応援などを通して、協調性や責任感を身につけさせるとともに、達成感を味わわせ、学校やクラスへの帰属意識を高める。	A	A	引き続き生徒の帰属意識が高まる行事を心がける。
		・キャリアパスポートを活用し、学校生活への見通しを立て、行事に主体的に取り組み、責任感を持って臨む態度を育成する。	B		継続できるようにする。
	生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的な参加を推奨し、各種活動の活性化を図る。	・生徒が主体となって活動する生徒会活動、委員会活動、部活動を目指し、活動内容の充実を図るとともに、組織の一員としての自覚を持たせ、責任感を育成する。	A		引き続き生徒の能力を伸ばす活動を心がける。
		・ボランティア活動への参加を推奨し、奉仕の精神を育む。	A		継続できるようにする。
進路指導	進路目標を持ち、その実現に向けて行動することの重要性を自覚させ、そのための意欲と実力を養成する。	・最新の入試動向の情報収集に努め、各学年と協力して進路指導を行う。	B	B	各学年の状況に合わせた的確な情報提供を行う。
		・多様化する大学入学者選抜に対応できる学力を育てるための指導を行う。	A		特に公募制と総合型に対応した指導を拡充する。
		・進路希望の実現のため、各種検定受験の奨励に努める。	A		可能性がある限り粘り強く受験を奨励していく。
		・生徒の進路希望の 100% 実現をめざす。	B		進路が定まらない生徒への働きかけを効果的に行う。
	学習習慣を確立させ、自らの学力を高め、基礎学力の定着を図る。	・課外授業や考查前土曜開放を通じて、学校や家庭での主体的な学習を促し、自学自習の習慣を定着させる。	B		より効果的な土曜行事や課外を設定する。
		・専門学校希望者に対して、専門学校の特性を理解させ、適切な選択をするための相談と情報提供に努める。	A		多角的に研究することにより、生徒の希望に添った専門学校の受験を勧める。
		・就職希望者に対して、勤労観・職業感を身につけさせる。3 学年では個別指導を徹底し、個々の適性にあった企業選択を支援する。	A		多角的に研究することにより、生徒の希望に添った民間就職先や公務員試験の受験を勧める。
		・HR 等での進路の手引きの利用を推奨する。また、保護者への情報提供に努めて連携を強化し、進路や学習に対する家庭での意識の啓発を図る。	B		進路情報の効果的な提供を常に心がけていく。

別紙様式 2 (高)

保健厚生	新型コロナウイルス感染症対策への対応を図る。	・手洗い、うがいマスク着用の励行や、各教室やトイレ等の消毒液を設置し、こまめな使用を促し対応を図る。	B	A	コロナ禍は落ち着いてきたが引き続き感染症対策を実施していく。
		・生徒の体調を把握し、保護者と連携をとり対応を速やかに行う。	A		
	保健室利用に対する職員の共通理解を図り、生徒の自己管理を支援する。	・保健室利用カードを用いて、担任や教科担当が生徒の状況を把握しやすくする。	A		インフルエンザ等速やかに把握できるよう心掛ける。
		・保健室の利用の仕方や注意点を明示し、時に応じて必要と思われる情報を生徒に知らせる。	A		
	施設整備を大切に扱う心や公德心を育成する。	・環境美化委員会による学期 1 回の学校周辺の美化活動を実施する。	B		日頃より出来そうなことを工夫し実施する。
		・松陽祭(文化祭)開催時に校舎周辺の美化活動を実施する。	A		
	学校環境や清潔さの保持のため清掃を図る。	・必要に応じて清掃区域等の見直しや工夫をする。	A		ゴミの分別が出来ていないことがあるので、年度当初に周知する。
		・一斉清掃時の具体的な重点目標を明示する。	A		
		・確実なごみ分別のために、分別表を各クラスに通年掲示する。	A		
渉外	PTA活動の見直しを行った上で、活発な活動をする。	・PTA総会の実施方法を書面評決に変更し、従来のPTA総会当日は、授業参観、学年懇談会、美術科・音楽科の進路状況説明会とする。	A	A	今年度に引き続き、来年度も同様にPTA本部役員と連携しながら、PTA活動の見直しについて検討する。
		・PTA本部役員と連携しながら、PTA活動の見直しを行う。	A		
		・PTAの行事について、情報が必ず会員の手元に届くように緊急情報メール配信システム等を活用する。	A		
	創立 40 周年事業について、同窓会との連携を密にする。	・同窓会役員との連絡を密にし、創立 40 周年記念事業について成功させる。	A		創立 40 周年事業を踏まえての創立 50 周年事業に向けての検討。
図書	読書場・学習場・調べ場としての機能の充実を図る。	・蔵書整理等で書架を整理し、利用しやすい図書館を目指す。	A	B	図書館の環境をさらに整えるとともに、教科・学年との連携、本の展示や紹介方法の工夫に取り組み、利用者を増やす。
		・季節やテーマに沿った館内ディスプレイを工夫し、居心地の良い図書館を目指す。	A		
		・「図書館便り」を発行し、本に興味を持たせる。	B		
		・職員、生徒からの図書購入希望に対応し、「読みたい本」のある図書館を目指す。	A		
		・新入生に対する図書館ガイダンスを実施し、利用の促進を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

		・公共図書館の利用案内・県立図書館サービスの活用方法の案内をする。	C		当番生徒と担当教諭の連携を密にして、より活動の活性化を図る。
	図書委員会の活性化を図る。	・よりよい図書館利用のために、研修会への参加を促す。	A		
		・図書委員の仕事(カウンター業務や図書館内のディスプレイの工夫、おすすめの本の紹介など)を明確化し、責任を持って取り組ませる。	B		
情報	ICT を含めた環境整備と ICT を活用した授業の推進を積極的に図る。	・パソコンを中心に保守・点検を行い、入替え・更新等を検討して、よりよい環境整備を進める。同時に古いパソコン等の廃棄処分を計画的に行う。	A	B	パソコンの交換・破棄やよりよいWi-Fi環境の整備を実施できたので、継続していきたい。授業に関しては、実践事例を共有できる環境を整えていきたい。
		・タブレット、電子黒板を活用した授業の実践事例を広く共有し、ICT を活用した授業を促進する。	B		
	個人情報の保護と情報モラルについての研究を進める	・学校で取り扱う電子データについて、その保護及びバックアップを行い、個人情報保護の方策(データの管理体制など)を万全とするための取り組みを推し進める。	B		生徒情報等を適切に管理することができたので、継続していきたい。今後も教科・生徒指導部等とも連携を図りながら、指導していくよう心がける。
		・教科「情報」や生徒指導部と連携を図って、情報モラルについての職員の共通理解・生徒への指導を進める。	B		
	本校の保護者や入学希望者やその保護者にきめ細かな情報提供を行う。	・ホームページを通して、本校の特色・教育目標・活動状況などをより分かりやすく伝えられるような最新情報を随時提供する。	A		ホームページは、引き続き良好な状態を心がける。各家庭・生徒へのメール配信も引き続き円滑に活用できるように心がける。
		・緊急情報配信メールについて在校生・保護者に有益な情報源となるような配信の体制作りと実際の配信を目指す。	A		
美術科	授業を中心とした指導体制の強化を図り、実技向上と教科学習の両立を目指しながら、表現に必要な技能を高める。	・学習と実技を両立させるために、効率良く教科学習ができるように授業担当者と連携を図り、バランスの良い学習習慣の定着を図る。	A	B	実技向上とともに学力面でも成果が見受けられた生徒が増えてきた。両立できるような姿勢と環境をさらに整えていきたい。
		・ワークショップや講習会を通して、実技力向上を目指し、制作に向かう姿勢や観察力・思考力・描写力・集中力・忍耐力を培う。	B		
		・表現や技能をより深く理解し、習得できるように ICT を効果的に活用する。	B		
	課題制作を通して必要な知識・技能を身につけ、第 27 回取手松陽美術科展の成功を目指す。	・専攻授業年 35 日を可能な限り確保し、より完成度の高い作品制作と発表できる環境を整える。	A		補講などで、専攻授業の不足分を補うことができたので、今後も継続・連携していきたい。
		・展覧会を開催するために必要な各種作業を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、達成感や充実感を味わわせ自分の役割に責任を持てるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

	様々な行事体験を通して進路意識の向上と美術界の次代を担う人材育成を目指す。	・芸術鑑賞会等で本物に触れる機会をできるだけ増やし、美術の文化や歴史を学ぶことで豊かな感性を育み、伝統や文化に対する興味・関心をより高めていく。 ・オープンキャンパスや大学・予備校などの出張授業や講習会への参加を促し、幅広い芸術分野への興味・関心と理解を深め、進路選択の幅を広げると同時に保護者との連携を図りながら、自らの進路について探究できる力を醸成していく。 ・地域や各種機関からの参加要請や、ボランティア、コンクール応募等に可能な限り応え、美術科としての誇りとプライドを持ちながら、社会貢献の一助を担えるように促す。	B		可能な限りの対応をしてきたが、多忙で煩雑になりつつある。次年度はもっと芸術鑑賞の機会を増やしたい。また、積極的なコンクール応募を促したい。	
			A			
			B			
音楽科	授業を核とした豊かな人間性の育成と個の能力を高める指導体制の充実を図る。	・毎日の授業を大切にし、何事にも興味をもって学習する姿勢を身につけさせ、専門科目と教科学習をバランス良く学習することで豊かな人間性を培う。 ・非常勤講師と連携し、指導法の工夫や教材研究を共同的に行う。また、専門実技年間 35 日をはじめ授業日の確保に努め、実技の個人指導やソルフェージュの習熟度別学習を通して、一人ひとりの能力を高める指導体制の充実を図る。	A		次年度も各教科の先生方や非常勤講師の先生方と連携しながら、一人ひとりの能力を確実に高める指導体制を継続させていきたい。	
			A			
	進路意識の具体化を図る。	・オープンキャンパスや講習会への参加を促し、進路に対する意識の高揚と目標の明確化を図る。高大連携として、各音楽大学に公開レッスンや実技ガイダンスの要請を積極的に行い、情報提供や交流を図る。 ・保護者、実技担当者、大学との連携を図り、生徒の希望進路の実現に向けて努力できるよう、面談や個人指導を重ねる。	B	A	大学見学会を充実させ、実際に足を運んで大学の環境を肌で感じ、目標を具体的にもって学習できる環境を整えたい。	
			A			
	様々な音楽科行事を通して芸術的感性の伸長を目指す。	・校内外における演奏会や公開レッスン、芸術鑑賞会など生徒の芸術的感性を刺激するような行事を積極的に企画運営する。また、行事を通して社会における音楽の役割や意義についても考える機会をもたせたい。 ・正しい服装やマナーの大切さを自覚させ、アーティストとしての誇りと調和の取れた人間性を培う。	A			コロナ禍が行事の精選のきっかけとなり、より重点を置く行事を見極めることができた。年間計画をしっかりと立てて、次年度臨みたい。
			B			
	地域社会や中学校への働きかけを重視し、相互理解を深める。	・中学校訪問、体験入学、学校説明会、HP の活用など対外的広報活動を充実させ、地域社会や中学校との相互理解を深める。また、地域事業への参加や訪問コンサートを実施し、音楽を通じた地域社会への働きかけを継続する。	A			今年の対外的な広報活動による効果が見えてきたので、次年度も継続していきたい。
事務	安全で充実した教育活動ができるよう、施設及び設備の整備を図る。	・施設及び設備の点検を行い、危険・不良箇所については早急に修繕する。 ・関係部署と打ち合わせを行い、学校が目指す教育活動に沿った整備を実施していく。	A	A	遺漏なく業務を遂行できた。	
			A			
	効率的な会計の執行に努める。	・備品、消耗品を計画的に購入し、授業で有効活用できるようにする。 ・規則等を遵守し、適正で有効的な予算執行をする。	A		遺漏なく業務を遂行できた。	
			A			

別紙様式2（高）

教科指導	指導計画を充実させ、ICT の活用を含めた指導形態・方法の工夫に努め、授業力の向上を図る。	・観点別評価に基づいた学習指導をより浸透させ、公平な評価を徹底するとともに、生徒の主体的な学びを支援し学習意欲を高めることのできるような授業の改善に努める。	A	A	観点別評価に基づいた学習指導が進んだ。ICT を有効に活用した授業に、多数の教員が取り組んでいる。授業改善プロジェクトを、核に指導法に関する議論が積極的に行われるようになった。
		・ICT を効果的に活用し、新たな技術を不断に研究することより、活動的な分かりやすい授業の実践に努める。	A		
		・授業改善プロジェクトのメンバーを核として研究授業や他校視察により授業分析を行い、成果を教職員の研修で披露するなどして、指導法の向上に努める。	A		
	自ら学習に取り組む意欲を高め課題解決能力の向上を目指す。	・学力向上重点目標を実現させるため、課外学習を充実させるとともに、学年多目的室や個別学習室の充実を図るとともに周知を徹底し、自主学習の定着を図る。 ・学校評価に係る生徒による授業評価の結果を基に授業改善に活用できるよう努める。	B		進学希望者に対して課外授業の参加希望者が少ない。学校で自学自習に取り組む生徒も少数である。生徒が積極的に取り組む手立てを講じたい。
国語	計画的に授業を展開し、授業力を向上させる。	・授業目標に沿う授業計画を立案し、密度の濃い授業を展開する。	B	B	計画的に授業を展開することができた。授業改善プロジェクトを通して研修を積みことができた。
		・授業終了後に授業内容を点検し、次の時間の授業改善につなげる。	B		
	基礎学力の定着を図ると共に、進学対策を充実させる。	・小テストを利用して学習理解度を点検し、不十分な生徒に課題等を課す。	B		課外授業の実施による充実した進学対策を行うことができた。参加人数の増加が課題。観点別評価について、評価基準の詳細についての引き続き研究・検討の余地がある。
		・課外授業を充実させ、応用力を身に付けさせる。	B		
		・現代文はもちろん、興味を失いがちな古典に対しても、言葉や文化が現代の日常生活に密着していることを習得させる	B		
地理歴史	学ぶ意義を理解し、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。	・教材、授業内容・方法について情報交換を密にし、教員間で高め合う。	A	A	授業力向上のために研修へ参加数は増えてきたが、得た情報を正式に共有していく機会を設けることがなかった。したがって来年度以降は、研修成果を共有できる機会を増やし、職員全体の授業力向上に役立てていく。
		・各種研修会に積極的に参加し、成果を共有し、相互の研鑽に努める。	B		
		・ICT 機器を効果的に活用させ、資料活用能力を伸ばし、社会的事象を多面的に捉えさせる授業を展開する。	A		
	生徒の学習理解を把握し、適切に評価する。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・多面的な評価を実施していく。	A		興味関心をもたせることはできたと思うが、生徒の基本的な知識の定着に課題が残る。小テスト等の実施を通して、復習を強化していく。

別紙様式 2 (高)

公民	学ぶ意義を理解し、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。	・教材、授業内容・方法について情報交換を密にし、教員間で高め合う。	A	A	授業力向上のために研修へ参加数は増えてきたが、得た情報を正式に共有していく機会を設けることがなかった。したがって来年度以降は、研修成果を共有できる機会を増やし、職員全体の授業力向上に役立てていく。
		・各種研修会に積極的に参加し、成果を共有し、相互の研鑽に努める。	B		
		・ICT 機器を効果的に活用させ、資料活用能力を伸ばし、社会的事象を多面的に捉えさせる授業を展開する。	A		
	生徒の学習理解を把握し、適切に評価する。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・多面的な評価を実施していく。	A		
数学	進路希望に即した授業の展開を図る。	・年間指導計画を作成し、それに基づいて授業を実施して、定期的に授業の進め方や教材の使い方を検討し、生徒の実態に応じた授業を展開する。	B	B	本校の特徴でもある多様な進路希望になるべく応えられるような授業を進めたい。
		・進度・内容・教材の工夫等の連絡・研究を密にし、個人の進路希望に対応できるように、チームとして指導する。	A		
	生徒の基礎学力の定着を図る。	・予習・復習の習慣付けを促す。	A		いずれの学力層の生徒に対しても、より理解度が高まる学習指導をしていきたい。
		・定期的に小テストや課題提出を実施し、基礎的事項の定着に努める。	A		
		・理解不十分な生徒への補習を実施するなど、学力の全体的な底上げを図る。	B		
		・計画的な課外により応用力を高める。	B		
	身近な自然現象を探究させることをとおして、自然科学に対する興味関心を高めさせる。	・考える機会を意識した授業を展開し、自然について興味関心を高め、その原理や法則についての理解を深める。	A	A	日常生活に関連付けて、自然科学に対する興味関心を高めさせる。
		・身近にある材料や自然現象を活用した観察・実験を行いながら、器具の基本的操作を習得させる。	A		
		・タブレットや電子黒板などを用いて、ICT を活用した協同学習また視聴覚教材を授業に取り入れる。	A		他の生徒の意見に耳を傾けながら、積極的に自分の意見を発表できる姿勢を高める。
		・実験活動や協同学習で話し合いを行い、思考力・判断力・表現力を向上させる。	A		
	科学的な思考力を磨くために基礎学力を習得させる。	・生徒の実態に即した学習課題を出し、授業の予習と復習を促し、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする。	A		理解できた生徒が周りの生徒に教えてあげる態度を養う。

別紙様式 2 (高)

保健体育	体力、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさ、喜びを様々な方法で味わい、生涯に渡って運動に親しむ実践力を育てる。	・体力テストの結果から自己の体力状況を捉えさせ、一人ひとりに合った運動時間、運動量を確保させ、体力の向上を図る。	A	A	運動量の確保と共に、ICT 機器を工夫して活用し、運動への理解や考える力を養いながら運動に親しむ実践力を更に深めていきたい。
		・チーム毎に作戦や計画を立てさせ、練習内容を工夫し協力し合うことで、自己の役割を果たす態度を育て、運動の喜びや楽しさを経験させる。	A		
		・さまざまな体づくり運動を通して、運動に対する興味・関心を高めさせると共に、基礎的な体力・技能を向上させる。	A		
	健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理する力を育てる。	・健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が実践できるようにする。	A		実生活に即した教材をICT やペアワーク等で工夫して取り入れ、健康に対しての正しい行動選択が実践できるような授業内容にしていく。
		・ICT などを効果的に活用し、様々な感染症の原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解させ、自己の健康管理に努めさせる。	A		
		・薬物乱用、未成年者の飲酒、喫煙は心身の健康に深刻な影響を与えることを実生活に即して理解させ、絶対に関わらないという意志を持たせる。	A		
英語	英語に対する苦手意識をなくし、前向きな学習態度を涵養する。	・ICT などを効果的に活用することによって、生徒の学習内容に対する興味・関心をより一層持たせる授業を展開する。	B	B	ICT やペアワークグループワークを取り入れた授業が多く行われた。今後は生徒がタブレットやクラスルーム等を使う授業を展開したい。
		・教師からの一方通行の説明ではなく、ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒の授業への積極的な参加を図る。	A		
	4 技能をバランスよく伸ばすことで、外部試験の合格者数を増やす。	・外部試験（英検など）の積極的な受験を促し、それらの合格に向けた課外や面接練習などのサポートを充実させる。	A		今年度は1年生検定チャレンジ2年生英検準2級全員受験と受験者が増えた。今後は普段の授業から英検を意識した授業作りをしていきたい。
		・リーディングや文法に偏らず、スピーキングやライティングの指導にも時間をかけ、4 技能をバランスよく伸ばす指導をする。	B		
	指導と評価を一体化させる。生徒に学習の習慣を身に付けさせる。	・この授業で学べば「何ができるようになるのか」を明確に表す。教師は何を教え、生徒には何を身につけさせるのか、そしてそれをどう評価するのかを考えて授業を設計する。	B		計画的に授業を設計することができなかった。今後は長期間の目標を達成するために毎時間の授業で何が必要か考える必要がある。
		・小テストの実施や課題を計画的に課すことにより学習意欲の喚起と家庭学習時間の確保に努める。	B		
家庭	生活の営みを総合的にとらえ、社会とのかかわりを理解させる。	・家庭生活の様々な事象の原理・原則について、科学的根拠に基づいて理解させる。	B	B	個人の生活から地域社会との関わりについて視野を広げるための情報を提供する。
		・消費や環境など地域社会とのかかわりを理解させ、グループによる対話的学習を通して、意志決定や問題解決能力を高める。	A		

別紙様式 2 (高)

	生活に必要な知識や技術を習得させ、生活を創造する実践的態度を養う。	・グループによる実験・実習を通して、協力する姿勢や相手を思いやる態度を育む。 ・基本的な知識や技術を習得し、ホームプロジェクトなどを通して、主体的に生活を創造する実践的態度を養う。	B A		技術の習得による個人差をなくし苦手意識を克服できるような授業展開をする。
情報	情報化社会で生き抜く力を養う。	・情報モラルを身に付けるとともに、最新のIT環境を踏まえて著作権等の他人の権利を尊重する姿勢を育む。	B	A	集めた情報が正しいかどうか判別できる力を養えるような授業を考えていきたい。
	正しい情報を収集する力を養う。	・ブラウザなどを用いたインターネット上の情報検索について知り、有益な情報収集の手段を学び、知り得た情報を有効活用する。	A		
	情報を正しく発信できる力を養う。	・プレゼンテーション作成ソフトを使って作品を作り、その発表を通してプレゼンの有効活用や情報発信の基礎を身に付ける。	A		
1 学年	高校生としての基本的な生活習慣を確立する。	・時間に余裕のある行動を心がけ、落ち着いた生活態度を養う。	A	B	全体的に規範意識が高く、落ち着いて生活している。
		・制服をきちんと着こなし、礼儀正しい振る舞いを身につけさせる。	A		
		・校則を守るとともに、公共のルールやマナーを理解し実践する態度を養う。	B		
	学習目標を明確にし、家庭での学習習慣を定着させる。	・予習復習などの学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。	B		高校入学後に家庭学習の時間が短くなるなど、学習習慣が定着していない生徒がやや多い。
		・資格や検定取得の目標をもち、計画的・継続的な学習に取り組ませる。	B		
		・課外学習や進路学習などを通して自主的な学習を深め、進路選択に関する意識を高める。	B		
	学校行事や地域の活動に積極的に取り組み、人間性を育む。	・クラスマッチや文化祭などの学校行事を通して、協調性や責任感を育む。	A		行事やボランティアに熱心に取り組む生徒が多い。
		・ボランティア活動などを通して地域の方々との交流を深め、奉仕の心を育む。	B		
		・社会的問題に関心を持ち、課題解決に向け努力する姿勢を育む。	B		
2 学年	高校生としての基本的な生活習慣を継続させる。	・時間に余裕のある行動を心がけ、落ち着いた生活態度を養う。	A	A	1 年次よりこれまで、本当に生徒指導が発生していない。頭髪や服装についても大きな問題はないが、来年度の進路活動が楽しみである。
		・制服をきちんと着こなし、礼儀正しい振る舞いを身につけさせる。	A		
		・校則を守るとともに、公共のルールやマナーを理解し実践する態度を養う。	A		
	授業や家庭学習に意欲的に取	・日々の授業を大切にするとともに、家庭学習や課外学習で学力の向上に励む。	B		学習においても、「打てば響

別紙様式 2 (高)

	り組み、進路に関する主体性を高める。	・生徒による授業評価の結果を、魅力ある授業づくりに資するよう改善に努める。	A		く」生徒達である。2月の模試も任意であるにもかかわらず、7割近くが希望してくれた。家庭学習にしっかり取り組めるようにさせたい。
		・資格取得などの目標を持ち、自主的で計画性のある学習を身につけさせる。	A		
		・進路活動を通して進路への主体性を高めるとともに、進路目標を明確化させる。	A		
	学校行事や地域の活動に積極的に取り組み、人間性を深める。	・修学旅行や文化祭などの学校行事を通して、協調性や責任感を育む。	A		修学旅行での集団行動も素晴らしかった。総探学習も結びつけており、今後の発表会が楽しみである。ボランティア活動の機会を増やしたい。
		・ボランティア活動などを通して地域の方々との交流を深め、奉仕の心を育む。	B		
		・社会的問題に関心を持ち視野を広げ、課題解決に向け努力する姿勢を育む。	A		
3 学年	基本的生活習慣を確立し、自立した責任ある行動を身につけさせる。	・時間に余裕のある行動を心がけ、落ち着いた生活態度を養う。	B	B	進路決定後も、遅刻や服装の乱れに注意し、高校生らしい行動を促す。
		・制服をきちんと着こなし、礼儀正しい振る舞いを身につけさせる。	B		
		・校則を守るとともに、公共のルールやマナーなど社会的規範を養う。	B		
	授業や家庭学習に意欲的に取り組み、進路実現に向け努力させる。	・日々の授業を大切にするとともに、家庭学習や課外学習で学力の向上に励む。	B		進路決定後も、授業を大切に資格取得に向け努力する姿勢を促す。
		・資格取得などの目標を持ち、自主的で計画性のある学習を身につけさせる。	B		
		・進路実現に向け目標を明確にし、自ら努力する姿勢を育む。	A		
	学校行事や地域の活動に積極的に取り組み、人間性を深め社会性を育む。	・文化祭やクラスマッチなどの学校行事を通して、責任感や協調性を育む。	A		学校行事ばかりではなく、域の活動に目を向け、社会的視野を広げさせる。
		・ボランティア活動などを通して地域の方々との交流を深め、社会性を育む。	B		
		・社会的問題に関心を持ち視野を広げ、課題解決に向け努力する姿勢を育む。	A		

※ 評価規準：A大変よくできた Bよくできた Cふつう Dやや不足 E不十分